

産業ニュース 関心が高まるスリープテック市場

作成者:高見澤晶子

スリープテックの利用が拡大

睡眠障害や睡眠の質をテクノロジーで改善する「スリープテック」が注目されている。医療や研究機関で活用されていたが、現在はスマホなどのデバイスを活用して手軽に自身の睡眠状態を知ることが可能となり、利用者のすそ野が広がっている。また、睡眠不足や質の悪い睡眠が健康を害することについての研究が進み、人々の睡眠に対する意識が変化していることも注目が集まる要因の1つと言える。

スリープテックは企業からの関心も高い。慢性的な睡眠不足は労働生産性を押し下げ、国内で最大15兆円の経済損失を招いているとの試算もあり、働き方改革や健康経営の観点から睡眠の質の改善を支援するサービスを導入する企業が見られている。

スリープテック市場は国内外ともに成長

インドのリサーチ会社の調査では、スリープテックの世界市場は2024年に約1,000億ドル（約10兆円）規模に拡大すると予測されている。また寝具新聞社によると、国内市場は2020年に1.2兆円以上、潜在市場は3～5兆円にのぼるとみられている。2018年の経済協力開発機構（OECD）の調査で日本人の平均睡眠時間が先進国の中で最も短かったことから、睡眠の量・質の改善という点で国内市場は海外勢からも注目度が高い。

帝人は睡眠を軸にヘルスケア事業を強化

帝人 (3401) は寝具の下に敷くセンサーで睡眠時の生体情報を収集、睡眠の質をスコア化するサービスを展開。今後は日々の食事や運動、体重変化などを記録するアプリを手掛けるスタートアップ企業と連携し、睡眠に関するより精密なアドバイスを提供する。医療機器の事業を通じて睡眠に関する国内有数の知見を持つ同社は、睡眠を軸にヘルスケア事業を強化する方針であり、今後の取り組みにも注目が集まる。

寝具メーカーの新たな成長軸となるか注目

パラベッド (7817) は、入眠時、熟睡時、起床時の状態に合わせて角度が自動で変化するベッドや、体を支える部位ごとに硬さを変えられるマットレスを販売。センサーで睡眠中の心拍・呼吸・体動をモニタリングし、専用アプリで睡眠情報を管理・分析するサービスも手掛ける。寝具大手の西川もセンサー内臓マットレスを販売。**パナソニック (6752)** の家電と連動する月額サービスを提供し、快適な睡眠をサポートする。近年、寝具メーカーは大手小売業の低価格なプライベートブランドとの価格競争にさらされているが、スリープテックの活用が新たな成長につながるか注目したい。

さらなるビジネスチャンスの拡大に期待

その他、**NTT (9432)** や**凸版 (7911)** などの大手からスリープテックを専門とするニューロスペースなどのスタートアップまで幅広い企業の参入が見られ、市場の注目度の高さがうかがえる。睡眠に関しては未解明なことも多く、現在はデータの収集に重きが置かれているが、データが集まり活用が進めばさらなるビジネスチャンスが広がるだろう。

関連銘柄の株価、予想PER、コメント等

(単位：円、倍)

銘柄名	コード	株価 (7/26)	予想 PER	コメント等
帝人	3401	1,660	9.1	睡眠を軸にヘルスケア事業を拡大する方針
パナソニック	6752	1,320.5	14.7	寝具メーカーと協業して睡眠関連サービスを提供
パラベッド	7817	2,014	16.3	医療・介護ベッドの最大手
NTT	9432	2,825.5	9.4	寝具メーカーやスタートアップと協業して市場参入

(注) 予想PERは今期会社予想 (出所) CAM作成